

## 恭賀新年

会員の皆さまをはじめ、関係者の皆さまとともに、健やかな新年を迎えられましたことを心よりお喜び申し上げます。昨年は、「チエンジ」を合言葉に、アメリカから始まった変革の波が、わが国にも及び、十六年ぶりの「政権交代」が起きました。

しかし、景気は依然として停滞したまま、一向に浮かび上がる気配は見えず、経済・雇用情勢は厳しさを増しています。また、変革の余波は、少なからず現場で混乱を招いている状況にもあり、私たちの「県民の生活を守る」という使命は、ますます重要なものとなっています。

本会では、こうした福祉を取り巻く環境の変化の波に翻弄されることなく、これを変革の大きな契機ととらえ、会員の皆さまをはじめ県民の皆さまの信頼と期待に応えてまいりたいと存じます。また、過去に固執することなく、職員の意識の改革と組織力の向上を図り、誰もが安心して将来に希望を抱くことができる、明るい未来への扉を開く力強い一歩を踏み出す年にしてまいりたいと考えております。皆さまには、旧年にも増してご理解、ご支援を賜りますとともに、良き年となりますよう祈念し、新年のご挨拶といたします。



社会福祉法人

神奈川県社会福祉協議会

会長 林 英樹

### 「みんながともに生きるまち」ともしびポスター・絵本コンテスト表彰式開催

「みんながともに生きるまち」をテーマにしたともしびポスター・絵本コンテストはそれぞれ第三十回・二十三回目を迎えました。

県内の学校に通う子どもたちからポスターの部では千二百七点、絵本の部では二百三点もの応募があり、九十四点の入賞作品が選出され、昨年十二月十二日に県社会福祉会館において表彰式が開催されました。

当日は受賞者をはじめ、ご家族など多くの方が出席されました。会場内に設けられた作品展示コーナーでは、開式前から、自分の描いた作品の前に、満面の笑顔で写真を撮ったり、来年の創作に向けて、作品をじっくりと観察している様子が見られました。

ポスターの部では、審査委員長で画家の土田彦さんから講評をいただきました。土田さんは、「ともに生きる社会には『たすけあう』という思いやりと実行が必

要です。その原点は皆さんの作品から感じ取られる『やさしいころ』を、全ての人々が持ち合うことなのだ」と気付けられます」と、作品から共通して伝わる思いを話されました。

絵本の部では、副審査委員長で県教育委員会高校教育課の甲斐秀幸さんから講評をいただきました。甲斐さんは、「絵本作りを通して『みんながともに生きる』ことの大切さに皆さんが気付き、考えたことを伝える力を身につけることができたはずで、それはこのコンテストで一番大事なことです」と、話されました。

入賞作品は、平成二十二年三月十三・十四日にながわ県民センターで開催される「市民活動フェア二〇一〇」等で展示します。

(ともしび運動推進担当)



表彰式には受章者とその家族のほか、関係者を含め約230名が出席。